

さい がわ  
犀川

むろう さいせい  
室生 犀星

うつくしき川は流れたり  
かわ なが

そのほとりに我は住みぬ  
われ す

春は春、なつはなつの  
はる はる

花つける堤に坐りて  
はな つつみ すわ

こまやけき本のなさけと愛とを知りぬ  
ほん あい し

いまもその川のながれ  
かわ

うつく びぶう  
美しき微風とともに

あお なみ  
蒼き波たたへたり

※金沢の文豪「室生犀星」は明治二十二年、金沢に生まれ、犀川の近くの雨宝院で育てられた。明治二十八年、野町尋常小学校(本校)に入學し学んだ。野町っ子の先輩であり、校歌の作詞もしている。犀星は、四季おりおりの花がさく、うつくしい犀川の土手にすわり、読書のおもしろさを知った。うつくしい川のながれを思いうかべながら暗唱しよう。